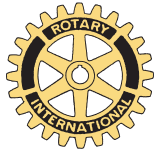


## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



## Weekly



2013～2014年度 国際ロータリー ロンD.バートン 会長テーマ

Engage Rotary Change Lives ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 鈴木 豊  
幹事 小川 耕示  
会報委員長 丹羽 克誌

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2829回例会プログラム

[当年度=21回目；当月=3週目]

2014年（平成26年）1月20日（月）

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉
- 12:28 1. チャイム
- 12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱  
……それこそロータリー
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事
- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)
9. 副幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(1/27) ……クラブフォーラム  
(研修情報委員会)  
講師 加藤 真治 会員  
(紹介者 杉浦 文雄 会員)  
※第2四半期皆出席の発表(出席委員会)  
(2/3) ……卓話  
講師 株式会社出版文化社  
代表取締役社長 浅田 厚志 様  
(紹介者 嶋津 孝久 会員)
- 13:00 14. 本日のプログラム  
卓話 「歴史と文化を大切にしまちづくり  
～刈谷城築城480年記念事業～」  
講師 刈谷市長 竹中 良則 様  
(紹介者 加藤 哲也 会員)
15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言
- 13:30 18. 散会

## ゲ ス ト

刈谷市役所 広報広聴課 鷹羽 和久 様

たかば かずひさ

## ビ ジ タ ー

東知多 RC 加藤 知成 様

ともなり

## 出 席

会員総数 96名 出席免除 26名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 87名  
欠席 10名 出席率 88.51%  
前々回(12/19)の修正出席率 100%

## 会 長 報 告

- 1) 当クラブに第32回米山功労クラブ感謝状を頂きました。
- 2) 嶋津孝久会員に第10回メジャードナー感謝状とバッジ、大音祖瑛会員、権田銀弘会員にマルチプルの感謝状が届いております。



## 副幹事報告

- 1) 本日、例会終了後、特別会議室にて60周年実行委員会を開催致しますので、ご関係の方はよろしくお願ひします。
- 2) 名古屋地区ロータリークラブ合唱団連合会の合唱祭の案内をメールボックスに入れさせて頂きました。参加希望の合唱団が有りましたら、事務局までお申し出下さい。

## 委員会報告

### ●雑誌委員会

- 1) 昨年、嶋津年度の雑誌委員会からの報告をさせて頂きます。ロータリーの友1月号の友愛の広場に、嶋津前会長が書かれた「ホールインワン自慢」が掲載されました。

## 会長あいさつ

鈴木 豊



昭和54（1979）年5月7日

創立25周年式典

25代会長 伊藤 義勝

記念事業として、

1. 都市美化運動の推進
2. 市の史跡旧跡に標柱を立て、その保存をはかる
3. 当クラブからの寄贈物件の維持管理と点検補修
4. 25周年記念式典の挙行
5. 25周年記念誌の発行。

当日の新聞見出し

「原発は安全」米の有力紙に支持広告

「ワシントン7日原田特派員」7日付のニューヨーク・タイムズやワシントン・ポストには「原発安全」を訴えた全面広告が掲載され、前日の原発反対デモ集会のトップ記事と対照的な“皮肉”な紙面構成となった。この広告は「スリーマイルアイランドは危険を再点検、一新される」と大きくアピールしている。

続いてスリーマイルアイランド原発事故をきっかけに全米の原発で総点検が行われ、事故の教訓が生かされていることや、米原子力委員会（NRC）も「水素が、漏れたあわの中で爆発することはない」と言明したことなどをぎっしり書き述べている。

（中日新聞）

### [ひと言]

2011年3月11日の東日本大震災は私たちの記憶に一生残る災害です。そして、このときに起きた東京電力福島原子力発電所の事故も衝撃的でした。その引き合いに出されるのが1979年3月の米国スリーマイル原子力発電所事故と、1986年4月のウクライナ共和国のチェルノブイ

(2)

リ原子力発電所事故です。3件を比較してみますと、事故原因は福島：想像を越す自然災害で、水素爆発による放射性物質漏洩。被害者は現在のところ不明。スリーマイル：人為的な操作ミスで停止後の再臨界なしのメルトダウン。死者0。チェルノブイリ：計画自体に不備・実験等の違反で、停止せず暴走大爆発。死者は4,000人～9,000人。ところが、事故処理に従事した作業員から55,000人が死亡しています。

事故の重大性を示す指標がレベル0～レベル7まであって、レベル(R)2：異常事象、R3：重大な異常事象、R4：事業所以外への大きなリスクを伴わない事故、R5：事業所以外へリスクを伴う事故、R6：大事故、R7：深刻な事故です。

福島原発事故はレベル3と発表されましたが、実際はレベル4にあたると言われています。今も事故処理に従事している作業員の方が大勢います。いつまで続くのでしょうか。

## お祝い

1月の会員の誕生日…神谷光義、原田光二、橘典子、竹内一郎、岡本巧、石川覚雄、浅岡幸雄、兵藤文男、稲垣俊彦、小川耕示会員。

配偶者の誕生日…坂貞子（茂）、杉山恵美子（欣輝）、原田トモ子（光二）、杉浦眞佐子（世志朗）、鈴木ゆかり（文三郎）、小澤敏子（陽一）、稲垣貴子（俊彦）、新海好美（伸二）、中川久子（耕兒）様。

結婚記念日…池田憲司、加藤哲也、杉浦芳一、稲垣俊彦、角谷広高、塙栄一、吉岡秀記会員。

1月度入会記念日…杉浦世志朗、鈴木文三郎、伊藤禎康、下谷敏朗、加藤大志朗会員。

## ダイヤモンド婚式のお祝い



池田 憲司 会員

## 還暦のお祝い



浅岡 幸雄 会員

## 卓 話

### 歴史と文化を大切にしまちづくり ～刈谷城築城480年記念事業～

刈谷市長 竹中 良則 様



本日は、歴史と文化を大切にしまちづくりについての市政報告を考えております。皆様ご存知だと思いますが、昨年、平成25年は刈谷城築城480年、天誅組義挙150年を迎える節目の年でありました。4月以降、様々な事業を展開してまいりました

ので、その「刈谷城築城480年記念関連事業」についてお話しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

本市の歴史は古く、その昔は、お城もあったわけであり。そのお城「刈谷城」について少しお話しさせていただきます。

刈谷城は、水野忠政により天文2年（1533年）に、当時の金ヶ小路（かねがしょうじ）と呼ばれる、現在の亀城公園の地に築城され、戦国から江戸期にかけて、本格的な城下町として整備されはじめ、今日の刈谷という街に発展してきたきっかけになったと言われております。

現在の亀城公園には、刈谷城の名残として、堀の跡・土塁の一部などが残ってはいますが、市内の小学生に尋ねると、この地にお城があったことを知らない児童がほとんどでありました。そんなこともありまして、この機会に刈谷城を知っていただきたいという思いが、築城480年の事業を進めた一つの理由でもあります。

また、本市の歴史について、もう一点、ご紹介させていただきます。

昨年、平成25年は奇しくも、文久3年（1863年）に天誅組が義挙してから150年を迎える年でもありました。

しかしながら、新しい時代を創ろうとした彼らも、当時は残念ながらまだその期が熟していなかったため、京都で挙兵したものの、結果としては現在の奈良県東吉野村で悲運の最期を遂げました。

こうした節目の年である平成25年は、刈谷城築城480年記念事業を推進し、本市の歴史に触れる機会を数多く用意して、本市の文化をPRしたいと考えました。

事業のコンセプトとしまして、刈谷城に関する記念会や講演会を開催し、刈谷城に対する理解を深め、刈谷の発展の礎となった刈谷城の復元を含めた亀城公園の再整備を2020年（平成32年）、市制施行70周年を目標に進めております。

この「刈谷城」と「天誅組」という2つのテーマを軸にして、「刈谷城築城480年記念事業」を展開してきたわけであり。ます。

そして今年、刈谷城築城480年記念事業でマスコットキャラクターを登場させました。もう皆さんも知っていると思いますが、この「かつなりくん」であります。

刈谷城築城480年記念事業の中心イベントとして、7月末から8月末にかけて美術館におきまして、刈谷城築城480年記念展を開催いたしました。

この記念展では、北は茨城県水戸市、西は広島県福山市から刈谷城にまつわる資料をお借りして、全102点を展示いたしました。

特に東京の三井記念美術館からお借りした「大日本五道中図屏風」では、立体的に描かれた刈谷城は珍しく、またその道中の細かな描写には目を見張るばかりでした。

8月10日（土）には、産業振興センターで刈谷城築城480年記念会を開催いたしました。

刈谷藩初代藩主である水野勝成公から数え、水野宗家20代目となります水野勝之様と水野様のお声掛けで早く講師を引き受けていただいた、徳川宗家18代当主の徳川恒孝（つねなり）様による記念講演会を一般財団法人刈谷頌和会様との共催により開催させていただきました。

お二人の記念講演会に引き続いて、「徳川家康出生の時代」をテーマにシンポジウムが開催されました。

このシンポジウムには、徳川様、水野様をはじめ、山形水野家の水野忠俊（ただとし）様、沼津水野家の水野忠知（ただとも）様、鶴牧水野家の水野静子様、土井家（刈谷藩）の土井貴正（たかまさ）様、板倉家（重原藩）板倉敏和（としかず）様にご参加いただき、全国に広がりを見せた水野家の来歴等を中心に話されました。また、新宮水野家第14代当主水野誠様の御令嬢であります、水野慈子（やすこ）様と慈子様のお手紙を頂戴いたしました。

講演会、シンポジウムに引き続き、水野家関係自治体サミットを開催いたしました。

8月24日には、天誅組終焉の地であり、本市とゆかりのまち提携をしております奈良県東吉野村から村長、教育長、代表の中学生をお迎えし、本市の中学生らと意見交換をするシンポジウムも開催いたしました。

続いて、去る11月3日（日）に亀城公園にて開催いたしましたチビッコ甲冑行列について、ご紹介させていただきます。

このイベントは、「刈谷城築城480年記念事業」のテーマでもあります「戦国ロマンに想いをはせ 未来へ夢を紡ぐ」にありますように、まさに次世代を担う園児達に、

刈谷の歴史に興味を持ってもらうきっかけにしたいという思いから企画したものでございます。

参加した園児や保護者からは、「友達とよろい姿で歩くのは楽しかった。」「子どもの成長が見られて良かった。とても良い記念イベントである。」との声もいただきました。

このイベントを通じて、刈谷の歴史を知りたい、学びたいと思う園児が一人でも増えたということを祈りつつ、主要なイベントの紹介を終えさせていただきます。

天誅組義挙150年という記念すべき年であった、昨年7月1日に奈良県の東吉野村と、「ゆかりのまち友好市町村盟約」を結び、天誅組の研究や顕彰事業を中心に両自治体の友好をさらに深め、歴史や文化を大切にしまちづくりを進めることを約束いたしました。

刈谷城復元に向けて、平成21年度より亀城公園内で発掘調査を行っております。

石垣も、これまでの想定よりも高いものであったのではないかと考えられています。

この刈谷城を再築し、「歴史のまち 刈谷」の核として、新たなまちづくりを進めることにより、市民の皆さんにこの街の歴史に親しんでいただくとともに、歴史の深さに誇りを持っていただき、そして刈谷により深い愛着をもってくれることを願って止みません。

なお、現在、「亀城公園等整備基金」を設立しております、寄付金を募集しておりますので、皆様にも、ぜひご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

色々とお話させていただきましたが、刈谷市として、この節目の年に「戦国時代に想いをはせ、未来へ夢を紡ぐ」をテーマに掲げ、「人が輝く 安心快適な産業文化都市」、「歴史文化のまち刈谷」の実現を目指し、皆様に“住みたい・住み続けたい”と願っていただけるような、産業と文化の調和した、魅力あるまちづくりを進めて参りたいと思いますので、本日、ここにお集まりの皆様方にも、今まで以上に、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます、今日の私のお話を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。